



にいがたけん けんめい 新潟県の県名はどうしてついたの

にいがた みなと なまえ 新潟という港の名前からつけた

もともと「新潟」という地名は、信濃川の河口の中州に新しい潟が作られたことから、ついたものです。「潟」というのは、海や河口の一部分が、砂州などによって切りはなされてできた湖をいい、潟湖ともいいます。

古代・中世には、「蒲原津(かんばんらのつ)」という港が、新潟市付近にあったと考えられています。永禄11(1568)年に、「新潟」という名前が初めて文献に現れ、戦国時代の終わりごろから港として、利用されてきました。江戸時代になると、海運の発達とともに港は栄え、近世の代表的な港となりました。安政5(1858)年の日米修好通商条約で、長崎・神戸・横浜・函館とともに、開港場に指定され、さらに発展しました。

新潟県の旧国名は、「越後」と「佐渡」です。明治維新後、新しい政治体制のもと、明治4(1871)年に、越後を新潟県と柏崎県にわけ、佐渡を相川県としました。その後、明治19(1886)年に、これらの3県を一つにして、新潟県としました。このとき以来、新潟県の県域は、現在と同じになったのです。

こめ し 米どころとして知られる新潟県

新潟県は、日本有数の米の生産県です。「コシヒカリ」という名前の米の品種は、日本で最も好まれる品種で、生産量も第1位です。コシヒカリの中でも、新潟県魚沼地方で作られる品種は、「魚沼産コシヒカリ」といわれ、消費者に人気が高く、高い値段で取引されています。(監修・田代 脩)

